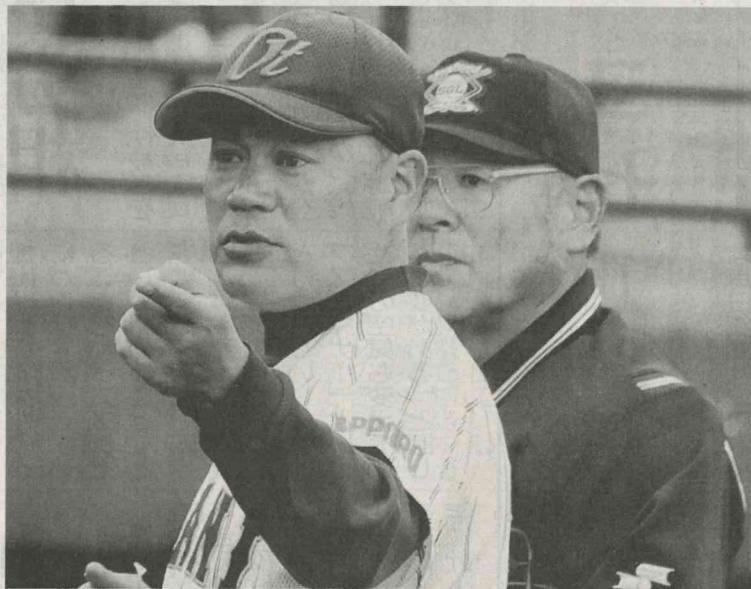


社会人野球の財産

北の獅子たち

新時代に挑む

上



札幌六大学野球リーグの札幌大谷大野球部で指揮を執る神田幸輝監督=札幌市中央区の札幌円山球場で

横浜市出身で、横浜商大から横浜を出て5年プレーしたが、チームは休部。活躍の場を求めて、津軽海峡を渡った。うだつた。

昭和から平成を経て、90回目の節目を迎えた都市対抗。新しい時代を迎えた道社会人野球の存在意義を探つた。

都市対抗

経験や技術学生たちに

都市対抗野球でJR北海道が、道勢19年ぶりの黄獅子旗(3位)を獲得した第78回大会(2007年)。現在、札幌大谷大野球部で監督を務める神田幸輝さんは、チー

ムの大黒柱として快進撃を支えた。観客で埋め尽くされた

1909年創部のJR北海道のマウンドからみた風景は、今も目と耳に残っている

6年プレーしたが、今度はチーム解散という憂き目に遭

い、06年からJR北海道に籍

を置いた。

当時、チーム改革に取り組んでおり、01年に初めて外部監督として北海道拓殖銀行でブ

レーブした高岡茂夫氏(現札幌国際大監督)を招致。選手強化に加え、休廃部したチーム

から選手を招いた。野球ができる環境に感謝し、真摯に取

り組む姿勢を若手選手に感じたが、チームは休部。活躍の

4試合に先発や抑えでフル登板した。【三沢邦彦】

神田さんは当時35歳。第78

回大会はコーチ兼務のベテラ

ン左腕として、準決勝まで全

4試合に先発や抑えでフル登

板した。「選手みんなの勝つ

んだ」という強い意志で一丸と

なっているのをマウンドから

感じていた」と振り返る。

現役引退後は、男女共学化でチームができたばかりの札幌大谷野球部でコーチを務め、その後は札幌学生野球連盟に新加入した札幌大谷大の監督に就任した。

道内の高校や大学では、かつて道社会人球界でプレーした選手が後進の指導にあたっている。神田さんは投手出身として、大事な場面で打者と対峙した際の初球の入り方や、相手を追い込んでからの勝負球など、より実戦的な指導を行うほか、「練習の時から、試合で自分をコントロールする力を養えることも力を入れています」と話す。現役時代の冷静なマウンドさばきが目に浮かんだ。

アマ球界のトップで培われた経験や技術。現役選手にとって、代え難い財産となるはずだ。

【三沢邦彦】